

セグロウリミバエについて

- 1 セグロウリミバエとは
主にウリ科の果菜類に被害を与える重要な害虫
※体長7～8mmの小型のハエの一種
- 2 寄主植物
 - ・ 主にウリ科（キュウリ，スイカ，カボチャ，メロン，トウガン，ニガウリ等）の生果実を加害
 - ・ その他，ナス科（トマト，ピーマン等），パッションフルーツ，スモモ，パパイヤ，ドラゴンフルーツ等の生果実にも寄生
 - ・ 沖縄県では，家庭菜園のウリ科生果実から寄生が確認されている。
- 3 特徴
 - ・ 雌が果実に産卵し，果実内で幼虫の食害が進行すると果実が腐敗・落果する。
 - ・ 幼果から熟果まで，広い生育段階の果実に産卵する。
- 4 世界における発生地域
中国，台湾，インド，東南アジア等
- 5 防疫措置
 - ・ 植物防疫法において，検疫有害動植物に指定。
 - ・ 沖縄県では，令和6年3月に名護市で確認されて以降，継続して誘殺等が確認され，今後，植物防疫法に基づく緊急防除が実施される見通し。
 - ・ 県内では，国が港湾，空港等29か所で，県は411か所の定点で侵入警戒調査を実施。



成虫



幼虫